



東洋英和女学院

史料室だより No.102



2024.5.16 発行
東洋英和女学院
史料室委員会



★ 東洋英和の歴史を学ぶ 小学部での試み（2023年度）

東洋英和女学院小学部では、折に触れて子ども達が東洋英和の歴史を学んでいきます。3年社会科授業（写真上）では「東洋英和の歩み」の授業が15コマにわたり行われています。そして、2023年度の学芸会（写真下）では、卒業生の村岡花子の生涯が6年生によって上演されました。今号では、小学部の自校史教材として刊行される子ども140年史『東洋英和のれきし』、さらには学院各部で行われている自校史教育を特集していきます。

★ 目 次

特 集	東洋英和の自校史教育 子ども140年史『東洋英和のれきし』 刊行への思いと制作過程	山本 香織	……	2
	学院各部の自校史教育 大学・中高部・小学部・東洋英和幼稚園・かえで幼稚園		……	4
	140年史制作中！ 英和の歴史再発見 —その2— 卒業60周年記念文集『風』	水谷 悟	……	9
	〈資料紹介〉44 中学部・高等部チャペル通信「ナルドの壺」について	高橋 貞二郎	……	10
	〈東洋英和の先生がた〉12 倉本 和 先生		……	12
	指導、奏楽、史料整理—何事にも真摯な先生— 史料室から、ごさげんよう			
	約40年の時を経て日本語訳が刊行された『日本での百年』		……	14
	利用統計／史料室の活動より（2023年10月～2024年3月）		……	15





特集 東洋英和の自校史教育

子ども140年史『東洋英和のれきし』 刊行への思いと制作過程



山本 香織 (前小学部長)

子どもが読める東洋英和の歴史の本がほしい…
いつの頃からか思っていました。

学院創立125周年を記念して出版された『カナダ
婦人宣教師物語』は画期的なものでした。ハンディ
ながら「東洋英和」が詰まっています。学校の本棚に
金文字の背を見せて収まっているこれまでの年史た
ちと異なり、活躍しています。在校生や卒業生だけ
でなく、関心を持たれたすべての人が手にして読む
ことで、お一人お一人の宣教師の先生方の生き様、
祈りに触れることができます。学院の歴史について、
これまで知らなかったことがいっぱいわかった、な
どという声も多く聞こえてきました。

ただ小学部の子どもたちには、まだまだ難しいで
す。写真を見て終わりです…。

ところが、退職したら子ども向けの歴史の本を書
きたい！ 3年社会科授業「東洋英和の歩み」の教
科書になるような…、とひそかに思っていた私の夢
が実現することとなりました。2022年3月に退職
した私は、4月に発足の「140年史編纂委員会」の
一員となり、同時に子ども向け140年史の発行を
140周年記念事業の一つに加えていただけたことも
決まりました。私の退職2年後がちょうど創立140
周年であるということは、願ってもないタイミング
でした。多くの時間と力を使うこの編纂作業は、と
ても現職中にできることではありません。そして退
職後の時間をこのために捧げられることは、私自身
にとっても大変喜ばしいものでした。

まず本文を書き始めました。主にこれまでの学院
刊行物が参考文献です。数えきれない頁を開き、ま
とめていきます。小学部の3年生が読むことを想定
し、彼女たちがちょうど理解できる文章を心がけ、
漢字は基本的に3年生で習うものまでを用いること
にしました。史料室とそのOG合わせて4名の「東
洋英和史生き字引」の方々が入念に読み込まれた上、

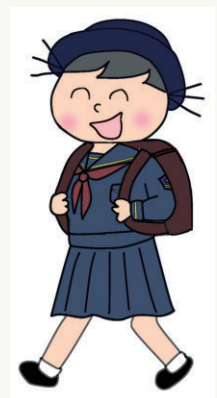
内容や年号の誤りや、こういうニュアンスにした方
がよいなど、チェックしてくださる会を3回ほど持
ち、貴重なご指摘をいただきました。以降も何かあ
るたびに史料室に助けてもらっています。

次に掲載する写真の選択です。イメージしやすく
するためにたくさん取り入れたいです。幸い学院史
料室は、2010年より始めた一大計画のもと、東洋
英和が保存している写真をデータベース化する作業
を進めています。史料室のパソコンの前に座り検索
をかけると、おびただしい量の画像データが出てく
るのです。何日も史料室に通い、検索し、これと思
う画像を大量に引き出す作業は新しい発見ばかりで
楽しかったのですが、どれもこれも載せたいため、
その後の取捨選択には苦勞しました。

ただ史料室データベース内の画像だけでは足りず、
外部団体から入手したり、史料室保存の卒業アルバ
ムその他刊行物の掲載写真から探したり、最近のも
のは私自身が撮りためたものから選んだり、改めて
小学部の先生に撮影依頼したり…、さまざまな方法
をとりました。

さらに子どもたちが親しみやすい本にするため、
イラストもたくさん入れることにしました。メイン
キャラクターは、小学部で年2回宗教部発行の「め
ぐみ」に、もともと私が2002年より掲載していた
四コマ漫画の主人公「めぐみ
こちゃん」(永遠の小学部5
年生の設定)です。そのほか
のイラストも、いまだ技術習
得途上のデジタルイラストに
より私が描いています。

また今回、『東洋英和のれ
きし』本編に加えてもう一つ
テキストを作ろうとしていま
す。3年社会科を担当する先
生を手助けするためです。

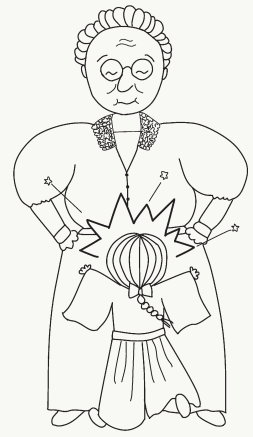


『東洋英和のれきし』
メインキャラクター
「めぐみこちゃん」

3年生の担任となり、秋ごろ社会科「東洋英和の歩み」の授業をすることになった先生たちは、これまでの先生方が残してきた資料や、『カナダ婦人宣教師物語』や、初めて手にする『東洋英和女学院百年史』などを読み、授業を組み立てていきます。なかなか取りつきにくいところがあったと思いますが、これからは『東洋英和のれきし』を教科書として進めていけることでしょうか。しかし子どもたちと同じ知識量で授業はできません。疑問に思ったこと、もっと詳しく知りたいことが出てきたらどうしたらいいのでしょうか。一般的な知識ならネットが何でも教えてくれます。手元のスマホを使えば数秒で答えが見つかります。しかし東洋英和のできごとや、人物についての知識は、学院内で回答を見つけるしかないにもかかわらず、どこをどのように探せばよいのかも難しいです。そこで授業準備の助けになればいいと思い、章ごとに、注釈をまとめた冊子を作ることになりました。

その中では、『東洋英和のれきし』本編の事象の典拠が、学院の『〇〇年史』の◇◇頁であることを示すだけでなく、『〇〇年史』を開かなくても済むように、引用文そのままを載せることを考えています。また小学部の子どもたちのことですから、鋭い

質問をしてくるに違いないと思われる事柄については、解説も載せます。さらに本編に載せきれなかった写真データをまとめた媒体も作り、授業の際などに活用できるようにしようと思っています。



子どもたちが単に歴史上起こった出来事をたどるだけでなく、綿々と受けつがれている宣教師の先生方の祈りと、いつの時代にも一貫して学院に示されている神さまのわざについて知ることで、一人ひとりに託されている使命に気づいてほしい、と願っています。

まだ校正段階ですが、子どもたちだけでなく、大人にも大いに喜ばれそうであるという声が聞かれます。ただ小学部の子どもたちを念頭に置いて作っていますので、明治・大正時代あたりまでは、学院全体共通の歴史について記していますが、昭和時代以降は、小学部の歴史が中心であるということをご了承いただきたいです。

子ども140年史 『東洋英和のれきし』

A5判 オールカラー 104頁
文・イラスト 山本香織 (前小学部長)
発行 東洋英和女学院
刊行予定：2024年10月
※おもに小学部3年生の授業で使用。
販売も予定しております。



『東洋英和のれきし』誌面の一例



テーマ別のページ

各教員の専門性を生かした自校史授業

大学では2022年度以来、自校史教育に特化した専門科目として、「東洋英和の歴史」という授業を新たに開講した。この授業は6名の教員による輪講形式でおこなわれ、各教員の専門性を生かした内容を盛り込むことで、大学ならではの自校史教育を目指している。

例えば、19世紀北米における女性宣教師の活動を、当時世界規模で展開されていた女性運動の流れの中に位置づけながら学ぶこと。あるいは1884（明治17）年の女学校創立やその後の歩み、戦後の短期大学設立・四年制大学の設立といった様々な歴史を、近現代日本の女性史・教育史・家庭史と深く関連づけながら学ぶこと。さらにキリスト教学校としての本学が、「今・ここ」の社会のなかで、キリスト教精神にもとづいた学びの実践をどのような形で行っていいのかを考えること。無論それ単独で学んだとしても十分に意義深く面白い本学の歴史ではあるが、一段と深い味わいを知るための「下地」作りを、専門的な見地から提供できればと考えている。

また全15回の授業のうち第8回～第10回では、学院史料室の松本郁子さん・三笠知世さんのご協力のもとで史料の現物を学生に見てもらうとともに、六本木校地の学院史料室を実際に訪問することで、学院の歴史をより具体的に／実践的に体感できる時間を作っている。この史料室訪問は学生の印象にも強く残るようで、授業の感想にもよく挙がる。

なお、大学では本授業以外にも1年生の全学必修「フレッシュマン・セミナー」にて、学院の歴史を概略的に教えている。しかしフレッシュマン・セミナーは大学1年生に修学や協働の基礎を幅広く習得させるための授業であり、自校史教育に専念した時間を十分に割くことは難しかった。そのため、より専門性に特化した自校史教育の授業を新たに開設できたことは、学生にとっても母校に対する一層の理解や満足度の向上につながっている。

授業の最終回で実施したアンケートからは、本授業を履修した学生たちの率直な思いが伝わってくる。「この授業を履修しようと思った当初の理由」としては、「英和生として母校の歴史を深く知りたかったから」「東洋英和が好きで、学びたいと思ったから」という回答もある一方で、「単位が必要だったから」という正直な答えもかなり目立った。しかし実際に全15回の授業を経ての感想としては、母校への思いがさらに強くなった、母校がさらに好きになったとの声が圧倒的である。「ミッションという言葉の意味を知ることから始まり、日本人のために



多くの宣教師が勇気をもって行動してくれたこと、当時の恩恵を今でも受け継いでいることを学び、なぜ『名のある歴史ある学校』なのかを知ることができました（2022年度・3年生）「今回の授業を通して学んでさらに東洋英和が好きになりました。後輩にもお薦めしたい素晴らしい授業でした（2022年度・3年生）」「学校の歴史も長く、母校について社会問題を絡めた歴史が知れるところがとてもよかった。必修にしてもいいくらいの授業だった（2023年度・3年生）」等、学生は母校の歴史を通じて自身のアイデンティティをも深めている。

なお、本授業は現時点では、学院史料室の見学における人数上の都合や、授業内容の専門性を鑑みて、3年生以上を対象とした全学の選択科目となっている。受講者の拡大等については、今後の課題として考えていきたい。

（野田潤 大学人間科学部准教授・史料室委員）

「東洋英和の歴史」2024年度 授業計画

- | | |
|-------|---------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2・3回 | 戦前期日本における女性教育の歴史 |
| 第4回 | 戦前期日本の社会と家庭における女性の地位 |
| 第5回 | 世界における女性運動と北米の女性宣教師 |
| 第6回 | 近代日本における外国人宣教師による教育活動 |
| 第7回 | カナダ婦人宣教師と東洋英和 |
| 第8回 | 学院史料から東洋英和の歴史を学ぶ① |
| 第9回 | 学院史料から東洋英和の歴史を学ぶ② |
| 第10回 | 史料室訪問、学院資料・村岡花子文庫展示コーナー見学 |
| 第11回 | これからの時代における「女性」のあり方 |
| 第12回 | 戦後から現代の女性をとりまく社会環境の変化 |
| 第13回 | 東洋英和 短期大学への歴史 |
| 第14回 | 四年制大学／ミッションスクールとしての東洋英和 |
| 第15回 | まとめと振り返り |

年間行事・各科授業における取組み

中高部では特別な自校史の授業は設けてはいないが、折に触れ、東洋英和の歴史を繋いでいく者としての自覚を身につけていけるようにと、さまざまな試みをしている。何よりも、学院標語「敬神奉仕」の精神を体現していける者として成長していくことを願い、伝えている。

中学部1年生

中学部1年生のオリエンテーションでは、カナダ・メソジスト教会の婦人宣教師ミス・カートメルによる学校創設の経緯、その後の宣教師の歴代校長の活動を学び、どのように伝統が受け継がれてきたかのお話を伺う。



中1オリエンテーションでは歴代の宣教師校長について学ぶ。

また、聖書の授業では、学院の歴史や宣教師のエトスを学び、敬神奉仕の原点を知る。小学部出身者は理解の深まりを覚え、中学部からの生徒は英和生としてのアイデンティティを身に纏う契機となる。



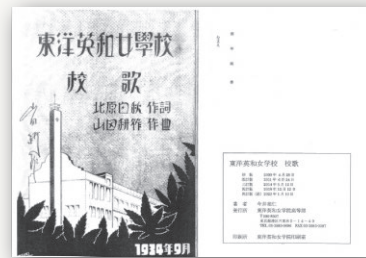
聖書の教えと学院の歴史を結びつけていく聖書の授業

中学部2年生

中学部2年生の現国で北原白秋の詩を学ぶ時には、国語科の今井亮仁教諭が執筆した「東洋英和女学校校歌」の冊子を用いる。当時の校長のミス・ハミルトンによって校歌が制定された経緯を学ぶのと同時に、北原白秋による校歌歌詞の理解を深めている。歌詞の解釈を学ぶことで、東洋英和が大切にしてい

ること、歌詞に込められたスピリットを自然と体得していく様子がみられる。その際、史料室所蔵の白秋の校歌清書原稿も見せている。肉筆に触れると生徒たちは当時に思いを馳せ、英和に流れる時間を実感し、その流れのなかに自身もいるのだとわかる。白秋と共に校歌作曲者の山田耕筈と英和との関わりにも関心を抱くようだ。

この冊子は高二修学旅行で柳川の北原白秋記念館に行く事前学習にも使われており、中学部での学びの再確認となる。



国語科今井亮仁教諭執筆「東洋英和女学校 校歌」の冊子

創立記念特別週間

創立記念特別週間では東洋英和の歴史をイラスト、写真と説明文で分かりやすく示したパネルが展示される。イラストはパネル作成当時（2008年～2013年）の在校生が自校史を学びながら描いた。

その年度毎にテーマがあり、そのテーマに沿ったパネルが展示される。生徒たちは友人と楽しげにパネルの前に立ち、声を出して読んだり、語り合ったりして、英和の歴史を学んでいる。

職員室前の廊下の両面に展示されたこのパネルは、在校生だけでなく、新任教職員が英和の歴史を知る一助ともなっている。

また、創立記念式典の式辞では必ず英和の歴史上重要な事項が語られている。

(神藤真理 元中高部国語科教諭・元史料室委員／
町島由美子 中高部国語科教諭・史料室委員)



創立記念日を覚えながら、東洋英和の歴史パネルを見る生徒たち

3年社会科授業「東洋英和の歩み」を軸とした展開

東洋英和の歩み（3年次社会科での自校史教育）

小学部の自校史教育の中心は、3年社会科の「東洋英和の歩み」の学習にある。文部科学省が定める学習指導要領において、「市（区市町村）の様子の変り変わり」を3年次に学習することが明記されており、日本中の小学3年生は、〇〇区、〇〇市の移り変わりや暮らしの道具の変化などを学んでいる。

様々な地域から通う英和の小学部児童には、港区の歴史を深く学ぶかわりに、歴史教育の第一歩として自校史教育に力を入れている。愛校心を育てるとともに、明治期からの社会の変化も学ぶ、歴史学習入門としてはたいへん難易度の高い授業を展開している。小学部の特色のある授業のひとつでもある、「東洋英和の歩み」の概要を紹介する。

1. 実施時期・時数

創立記念日（11月6日）をはさみ、10月ごろ～1月ごろに実施。授業時数15コマ（1コマ40分）を標準とする。

2. 指導内容

- (1) カートメル、ラージ、ブラックモア、クレイグ、ハミルトンの5人の校長の働きを中心に学院創設期・充実期を学ぶ。
- (2) 樫村辯市（元小学部主事）、外崎長三郎（元小学部長）の働きを通して、今日につながる小学部教育の土台が形成されていく様子を学ぶ。（「小羊」、小羊会、夏期学校、全校給食、校地移転、追分寮の誕生等）
- (3) 1970年代以降の学院・小学部の発展期を学ぶ。

3. 具体的な指導の工夫（年度によって異なる）

- (1) スライド、ワークシート型プリントを多く利用する授業展開

140年という長い歴史。歴史入門者の3年生にとっては、信じられないくらいの情報を伝えることになる。少しでも理解しやすいように、指導内容の改訂を重ねている。スライド・ワークシート作成においては、『カナダ婦人宣教師物語』（2010年発行）、各学院周年史、学院史料室の画像データベースなどを最大限に活用している。

- (2) 人物に焦点をあてる歴史学習

歴史学習は「～がおきた」「～ができた」という「できごと」が中心になりがちであるが、そこには必ず「人」が存在している。そしてその「人」にはそれぞれの「思い・願い」がある。そこに寄り添う学びを目指している。カートメルをはじめ、宣教師の思い・願いに、3年生の子どもたちは心を動かされている。

- (3) NHK連続テレビ小説「花子とアン」の活用

映像を通して、学院の歴史だけでなく、明治期・大正期・昭和期の生活そのものに親近感を得ること

ができる。3年生だけでなく、1・2年生にも歴史教育の第一歩として利用している。

- (4) 卒業生をゲストティチャーに招く。

卒業生でもある在校生の母、祖母に、授業の中で、昔の様子を伝えていただく機会を設けている。主に小学部旧校舎（1954年設立）時代との比較だが、体操服・校内服が異なっていたり、校舎・教室の様相が大きく違ったりすることを知りながらも、学校生活全般においては、祖母・母世代と共通していることが多く、文化が継承されていることに子どもたちは気づく。

- (5) フィールドワーク

本部・大学院棟1階にある学院展示コーナーに足を運んでいる。一番の注目スポットはカートメルグッズである。「楓園」91号（2021年1月）に掲載されているとおり、史料室にも足をのばしたこともある。また、港区めぐりの一環として、青山霊園にある宣教師の墓地を訪ねている。

4. 学習中の子どもたちの声

「カナダからの先生が多いこと、何代も宣教師の先生が校長になって続いていたことに驚きました。」「寮生活に憧れています。」「戦争でこの学校がなくならなかったのも神さまの愛と先生・生徒たちの気持ちということがわかりました。」

3年社会科以外の自校史教育の実践の紹介

1. 特別活動

2023年度学芸会では、6年生が作品名「曲がり角の先に～A Gift from Hanako」を演じた。村岡恵理氏の著書『アンゆりかご』『赤毛のアンと花子』を教員が脚色し、児童たちが創意工夫をしながら、ひとつの形にまとめあげる経験を積んだ。（表紙参照）

2. 英語

6年次にブラックモア発案による「60の英文」を学習する。

今後の課題

早急に戦中・戦後の小学部の記録を残しておきたいと願っています。ヴォーリズ校舎で小学生時代を過ごされた卒業生、出流山満願寺の集団疎開を経験された卒業生、新校地・新校舎へ引越された卒業生の方、ぜひ史料室・小学部へご連絡をいただき、そのときの様子をお話ししていただけると、小学部の自校史教育がさらに深いものとなります。ご協力をお願いいたします。

地主武史（小学部教諭・史料室委員）

歌や礼拝、講演を通じて歴史を知る

東洋英和幼稚園は今年創立110周年を迎えます。これまで沢山の子ども達がキリスト教保育の中で神様に出会い、育ちました。歌や礼拝を通じて学院や幼稚園の歴史に思いを寄せ、子ども達1人1人の東洋英和に対する安心感や愛校心が芽生えてきます。

歌で感じる歴史

幼稚園には、関係者の方が子ども達のために作ってくださった歌や踊りがいくつかあります。

幼稚園の園歌「東洋英和の歌 おともだち」は、卒業生の保護者である神津五月氏（俳優の中村メイコ氏）が作詞、大中恩氏（代表曲「さっちゃん」）が作曲をしてくださいました。学院創立87周年記念全院音楽会（1971年）で子ども達によって発表され、50年以上歌い継がれています。『東洋英和幼稚園創立八十年の歩み』には、子ども達が共感できるよう、幼稚園の様子を詞にされたことや、歌いやすいように曲をつけてくださったことが記されています。

盆踊りのように歌い踊れることが特徴である「英和音頭」は、幼稚園創立80周年を記念して1993年に作られました。卒業生の越智義乃氏（旧姓 西川）が作詞・作曲を担当、お姉様で卒業生の内堀祐子氏（旧姓 西川）が振付をしてくださいました。幼稚園の特徴的な行事や普段の生活の遊びが詞になり、子ども達の好きな動作が振付に取り入れられました。現在も親しみを持ち、太鼓や鉦に合わせて楽しく歌い踊っています。



「かえで夏まつり」と題した夏期保育で「英和音頭」を踊る（2023年）

「東洋英和幼稚園 100周年のうた」は、創立100周年を記念して作られました。作詞の依頼を受けた元園長丹羽輝子先生は、子ども達の日常を歌にするために「(1) 子どもたちに100年の月日の長さをどのように表現すれば伝わるのか？ (2) 子どもたちが毎日の遊びの生活の中で、年間を通して一番恩

恵を浴しているものは何か？この2点に絞って考えることにしました」（『いちょうの木の下で 東洋英和幼稚園100周年に寄せて』より）と記しています。「今年は創立100周年」という歌詞を、毎年の周年の数に合わせて歌えることも魅力的です。

このように、幼稚園の子ども達のために作られた歌や踊りは、当時の子ども達の姿や園の特徴を重んじて作ってくださったことがわかります。今後も貴重な幼稚園の歴史として歌い継いでいきます。

創立記念日礼拝での振り返り

学院創立記念日である11月6日は「東洋英和女学院の誕生日」と称して、園内に楓のマークやカナダの国旗を飾り、子ども達は楓の校章がついた制服を着ます。年少組、年中組は幼稚園ホールで保護者と礼拝をし、カートメル先生の写真を見て、東洋英和の始まりを知ります。年長組は保護者と中高部チャペルで礼拝をし、長い歴史の中で困難な事があっても、大勢の方が神様の愛の内において東洋英和を守ってくださったことも知ります。学校の歴史を知ることで、その歩みの中に自分達も身を置いていることを感じて神様に感謝の礼拝を捧げています。

保護者にも自校史を伝える

保護者にも東洋英和の歴史を知っていただけるように、学院発行の『カナダ婦人宣教師物語』を入園式で配布しています。学院創立140周年に先立ち、2023年11月1日に行われた母の会では法人事務局史料室の松本郁子氏、三笠知世氏に「東洋英和幼稚園の歴史—史料室の資料から—」と題して、講演をしていただきました。これまで



幼稚園の歴史を母達が学ぶ母の会講演の様子（2023年11月1日）

で、在園・在学中に培われた愛校心により、保護者となって幼稚園に戻ってきた方が沢山いました。卒業した後も東洋英和への帰属意識を持ち続けられるように子ども達、保護者に東洋英和の魅力を伝え、自校史教育に結びつくようにしていきたいです。

（宮坂 里奈 元東洋英和幼稚園教諭・元史料室委員）

創立記念日、ワークの日に伝える歴史と理念

かえで幼稚園ではこれまで「自校史教育」ということを特に強く意識してきたわけではありません。しかし、学院の歴史と理念、また、かえで幼稚園の歴史と理念を保護者にも子どもたちにも大切に伝えてきたことが、それに近いものとされるのではないかと思い、「創立記念日」と「ワーク（奉仕）の日」に語ったことの要約をここに記します。

創立記念日

かえで幼稚園では、学院創立記念日礼拝において、子どもたちとお母さまに、学院の始まりから今に至るまでの神さまのご計画と恵みについて話します。

（校章の絵を見せて）これは、かえで幼稚園がつながっている東洋英和女学院のしるしです。入園式の日にみんなにこの楓のバッジをお渡ししましたね。どうして楓の葉っぱがしるしなのかというと、楓の木がたくさん生えているカナダという国と関係があるからです（カナダの国旗の絵を見せる）。今から140年ほど前、「日本に行って、日本人たちに聖書の神さまを伝えなさい」という神さまからのお言葉を聞き、遠いカナダから船に乗って何十日もかけて日本に来られたカートメル先生という女の方がいらっしゃいました。カートメル先生は、いつも聖書を読みお祈りをしながら過ごされました。日本に着いてからは日本の言葉を勉強し、たくさんの方たちと礼拝をされました。そして、カナダの方たちのお祈りと助けによって、学校が作られました。それが東洋英和女学校です。最初は子ども（生徒）が2人、先生が4人の小さな学校でしたが、それからどんどん大きくなっていきました。何年かして、カートメル先生はカナダに帰られましたが、カナダからはそれからたくさんの先生たちが日本にいらして日本



創立記念日礼拝に、かえでやカナダ国旗をまじえてお話（2018年11月6日）

人の先生と一緒に子どもたちと礼拝をし、勉強をしました。大きな地震や戦争の時にも、神さまは東洋英和をお守りくださり、学校は続きました。

カートメル先生が学校を始められてから90年たった時、神さまはかえで幼稚園をこの場所に建てられました。今から〇〇年前のことでした（年ごとに創立からの年を伝える）。今、ここにいる子どもたちは、カートメル先生を日本に送ってくださった神さまからいっぱい愛されて過ごしています。

東洋英和女学院につながるすべての学校は礼拝を守ります。そして聖書のマルコによる福音書12章30・31節を大切にします（「敬神奉仕」を表す聖書のことばを読む）。

ワーク（奉仕）の日

「史料室だより」No.101「かえでの庭の50年」でも述べさせていただいたように、本園には、何もかも新しく遊びの環境が整っていなかった創設時に遊具作りを始めた経緯があります。

毎年、「ワークの日」の礼拝において、年長組の子どもたちとお父さまに、「ワーク（奉仕）」の歴史とその心を話します。

〇〇年前、かえで幼稚園ができた頃には、木も草花も育てていませんでした。タワーも、一本橋も、小屋も、テラスも…ありませんでした。それを見て「子どもたちのために、遊び場を作ろう」と考え、お父さんたちを集めてワークを始められたのが飯田泰造先生という短期大学の先生でした。お父さんたちは、力と心と頭（知恵）を合わせて、のこぎりで木を切り、金づちで釘を打ち、形にしていきました。子どもたちも先生たちも一緒に働きました。作られたものは、子どもたちをととても楽しませました。それからずっと、新しいものを作ったりして、毎年毎年ワークは続いてきました。

飯田先生はお亡くなりになり天国に行かれました。しかし、飯田先生の伝えてくださったワークの楽しさと手の技とことばは、今でも私たちの中に残っています。飯田先生は、こうおっしゃいました。「ワークは『はたらく』ということ。これは『はた（傍・他者）を楽にする』ということ。それはイエスさまの言われた『隣人を自分のように愛しなさい』というみことばにつながっていることです」と。誰かのために仕えること・ともに生きること・何もないところから何かを創り出すことは、かえで幼稚園の歩みであり、かえでの保育の心です。

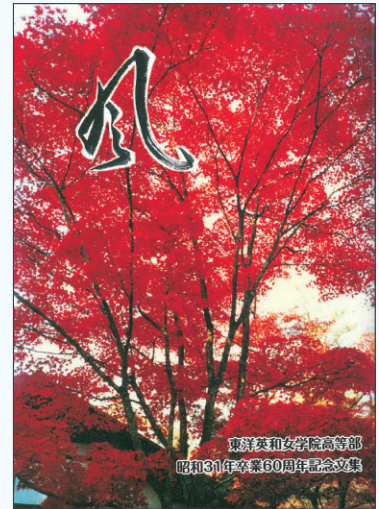
（大漣知子 前かえで幼稚園長・元史料室委員）

卒業60周年記念文集『風』

「史料室だより」No.100 で140年史の編纂開始をお伝えしたところ、教職員・卒業生からの激励に加えて新史料をご提供いただく機会に恵まれた。なかでも1956年3月に高等部を卒業した学年による記念文集『風』【写真1】には衝撃を受けた。

表紙は紅葉した楓の木が天高く伸び、「風」の題字。「さわやかな風、日の光を受けて輝く風、そして、しなやかに次の世代へ吹き抜けていく風」との思いを託すとあるが、中味は濃厚である。一読すると、楓の園から巣立った英和生たちが「風」となって世界中に信仰・希望・愛の種を蒔き、平和の「木」を育む姿が連想される。だが、総頁数318・全10章の文集を一頁で語るには五つのパンと二匹の魚の奇跡が起らない限り難しい。そこで今回は全体構成を示し、年史監修の立場から史料的价值の一端に触れるに留めたい。

- 口絵 思い出のひとつま / はじめに / 目次
第一章 亡き人を偲ぶ / 第二章 学窓の思い出
第三章 〈座談会〉海外で家族と暮らす 1960年代～1980年代
第四章 近況それぞれ / 第五章 趣味—多彩に花開く
第六章 随想 / 第七章 仕事と私 / 第八章 研究ノート
第九章 創作 / 第十章 遺稿
アンケート結果 / 年表 / 編集後記



【写真1】『風 東洋英和女学院高等部 昭和31年卒業60周年記念文集』 創英社／三省堂書店 2016年

「口絵」＝写真は戦中・戦後の幼稚園～小学部で始まり、中高部時代の恩師・野尻キャンプ・運動会・修学旅行と続くが、夜の余興や仮装行列の姿に快闊さが溢れる。卒業後の同期会は子どもたちと一緒にの頃から50周年まで計6枚、脚注に悪戯の後始末をした担任の先生方への謝罪があるのも英和生らしい。

「はじめに」では大学進学者も増え「女子の高学歴時代の到来」を告げた世代でありながら就職の門戸が狭かったと本編の前提が示される。この代では卒業20、30、50周年と冊子を三度編んできたが、今回は傘寿の前に「少々欲張って残存能力を精一杯發揮し」、「後輩の方々にもお読みいただけたら」との決意で臨んだという。

一章の友人との別れは胸に迫るが、亡き友の始めた家庭文庫が地域文庫へ発展する姿を図書館資料で復元した「松木さんと『木の葉文庫』」は秀逸である。二章では「東洋永和疎開学園」が目を惹く。疎開先から母に宛てた手紙は改めて紹介する機会を賜りたい。

三章では夫の赴任地である外国に暮らした6名が環境・交流・教育・帰国後などを語る。四～七・九章は教会・家庭、ボランティア・趣味・研究・仕事・創作など各分野で伸びやかに生きる姿が印象深い。十章は度重なる手術と治療を受けた同期生の闘病記である。

八章では根田（旧姓 宮治）春子「敬神奉仕の扁額と斎藤實・春子夫妻のこと」に言及せねばなるまい。扁額の謎をめぐる推理を披露した際に「今後もミステリーの解明に努めたいと思うが、果たせなかった場合には次期校史編纂者をお願いしたい」とご指名いただいたからである。140年史で筆者なりの解釈を示そう。

続くアンケートは「卒業後も教会に通っているか」などミッションスクール特有である。年表は自分たちが生きてきた1937年4月よりの出来事を東洋英和史・キリスト教界を軸に社会一般・女性関連事項から「心を躍らせてきたサブカルチャー」まで網羅する。そして編集後記では中心を担った11名が各自の思いを綴っている。

筆者も中高部教諭の頃より感じてきたが、高等部卒業60年を経て学友・遺族の協力により完成した同文集こそ英和生の強い愛校心の結晶にほかならない。是非、皆様にも自らページをめくり「風」を感じていただきたい。

水谷 悟（静岡文化芸術大学教授／『東洋英和女学院140年史』監修／
本学非常勤講師／元 本学院中高部社会科教諭）

〈資料紹介〉44 中学部・高等部チャペル通信「ナルドの壺」について

高橋 貞二郎（東洋英和女学院副院長）

現在、中高部ではチャペル通信「ナルドの壺」が発行されています。第1号（1982年12月）が発行されてから、今年で42年目となります。今回は発行に至るまでの思いや通信の内容、変遷などについて記したいと思います。

発行に至るまでの思い

発行25周年の節目に、それまで発行されてきた「ナルドの壺」の合本が作成されました。その巻頭言に、第一号の発行に携われた佐藤順子先生（元高等部長）が次のように記しています。

『楓よ ^{ことば} 東の道ある我が学舎』このように歌われている私たちの学校「東洋英和」。毎朝聖書の言葉を聴いて礼拝を守り、聖書の言葉の一つ一つが生徒にとっても教師にとっても生きる道しるべになることを祈っている私たちの学び舎。語られる聖書の言葉が、一度に全員の心に届かなくても、聖霊の働きによってたった一人の者の魂に響くことを願って、続けられている礼拝。礼儀・作法や道徳のための「よいお話」ではなく、生徒が神の愛の対象としての自己に気づき、その愛を受けて神と人とに仕える人へと育つように祈りながら語られるのが「礼拝のお話」です。確かに毎朝、私はそのようなお話を聞くことの幸せを感じながら、共に礼拝を捧げています。保護者の方々ともこのような恵みを分かちあい、学校のキリスト教教育をよりよく理解していただくことを願い、神様の言葉を家庭にも届けたいと願って、1982年アドヴェントに『ナルドの壺』第一号が発行されました。

このように「ナルドの壺」は、礼拝で語られる聖書の言葉と話を生徒の家庭にも届けたいという願いを込めて、1982年に発行されたのでした。

当時の教職員会議の記録には、中高部宗教委員会

による「ナルドの壺」の報告が記載されており、通信が宗教委員会の検討と準備を重ねて発行されたことがわかります。現在でもそのバトンは受け継がれ、発行は宗教委員会に委ねられています。

「ナルドの壺」という表題について

先ほどご紹介した巻頭言の中で、佐藤先生は「ナルドの壺」の表題についても、次のように言及されています。

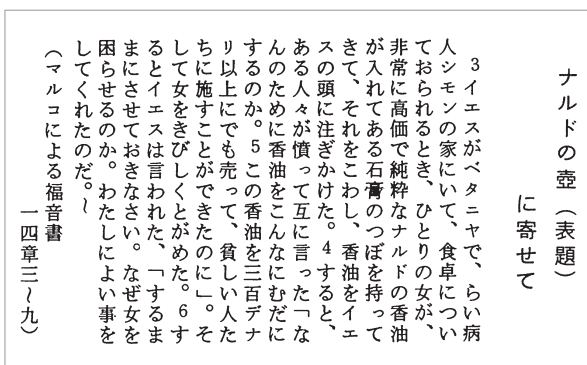
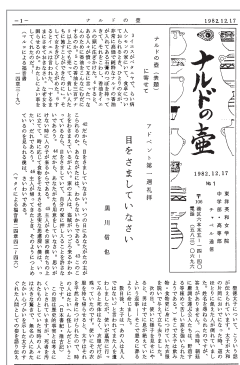
…「ナルドの壺」とは、一人の女性が高価な香油の壺を割ってそれをイエス様の体に注ぎ、愛を込めてイエス様の埋葬の準備をして仕えたことから、「奉仕」を意味する語として用いられています。チャペル通信「ナルドの壺」は、礼拝を通し聖書の言葉を通して、愛の人へと人格が形成されることを願って付けられた名前です…

第一号の冒頭には、ナルドの壺のエピソードを伝える聖書箇所（マルコによる福音書14章3～9節）が掲載され、その思いが良く伝えられています。

題字は景山暁美先生（国語科）がお書きくださり、題字を囲む図案は森田のぞみ先生（美術科）がご担当されました。

内容について

毎朝の礼拝で語られる聖書の言葉と話を届けたいという願いから始まった「ナルドの壺」でしたが、学校が大切にしているキリスト教やキリスト教教育



発行25周年目に再編集され、刊行された合本『ナルドの壺』（2008年）

を保護者により理解してもらいたいということも加わり、比較的早い時期から豊かな内容になっています。例えば、第7号（1985年12月発行）にはクリスマス特集号として5人の教師による「クリスマスの思い出」が載せられ、第14号（1989年2月発行）には中1 Y活動（現 中1ディアコニア）の特別講演、さらに第30号（1997年3月発行）にはハンドベル部が養護施設を訪問したのを機に交わされた「ある卒業生との往復書簡」なども載っています。掲載されてきたカテゴリーを整理して内容をだまかに記すと次のようになります。

I. 礼拝の話

1. 毎朝の礼拝（教師・諸教会の牧師・来賓・卒業生・生徒などによるもの）
2. 特別礼拝（中1歓迎礼拝、花の日礼拝、クリスマス礼拝、高等部卒業礼拝、追悼記念日礼拝）
3. 行事の礼拝（中1オリエンテーション準備礼拝、中2夏期学校礼拝）
4. YWCA関係（教師と生徒によるもの）

II. 教職員祈禱会の奨励

早天祈禱会、創立記念日の教職員祈禱会

III. 生徒による行事や活動などの報告

1. 学年行事（中1オリエンテーション、高三修養会）
2. 有志参加の行事（夏期修養会、聖書科沖縄学習旅行）
3. 中1ディアコニア〔旧 中1 Y活動〕関係（講演、体験学習の感想、花の日訪問・夏のボランティア活動報告）
4. YWCA関係（花の日訪問報告、学外で行われたYWCA諸行事報告）
5. 奉仕活動の感想（YWCA、ハンドベル部、英語演劇部、料理部など）

IV. その他

教師による「クリスマスの思い出」、「日本で最初のクリスマス」の紹介、「ある卒業生との往復書簡」、『東洋英和女学院百年史』からの引用など

掲載内容の変遷

掲載内容についてですが、発行当初は学内の教師による礼拝や祈禱会での話が中心に載せられていました。時と共に少しずつ生徒の礼拝の話や中1ディアコニアの体験記、感想などが増えていきます。2000年以降になると前年に創立記念特別週間が始まったこともあり、その期間にお招きした卒業生の

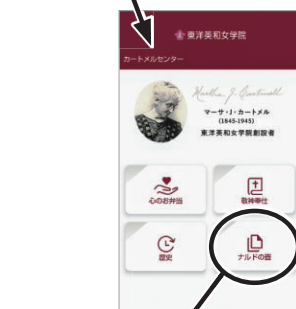
礼拝での話が紙面の多くを使って載せられていくようになります。さらに2002年以降学内の教師の話よりも、特別礼拝でお招きした牧師・講師の方の話が増え、その傾向が現在も続いています。

このように時代によって掲載内容は少しずつ変化していますが、「ナルドの壺」の発行時の思いに変わりはありません。

世界中で読むことができる「ナルドの壺」

40年以上「ナルドの壺」は、礼拝で読まれる聖書の言葉や話を家庭に届け、また学校のキリスト教教育を伝える貴重な役割を果たしてきました。その背後に多くの方々の善意による寄稿や、編集を手伝ってくださった方の存在があったことを忘れてはなりません。特に編集については、2023年度でご退職の国語科の神藤真理先生がここ数年、ご担当くださいました。筆者は20年間、中高部宗教委員会の委員長をいたしました。この場を借りてこれまでご寄稿くださった方々、編集をご担当くださった方々に心から感謝申し上げたいと思います。

ところで学院は今年、創立140周年を迎えます。その記念事業として昨年からはまったプロジェクトに「楓アプリ」があります。Webにつながる環境が整っていれば、このアプリを使って世界中どこにいても「ナルドの壺」を読むことができます。中高部で礼拝が続く限り「ナルドの壺」は発行されることでしょう。このチャペル通信が生徒の家庭のみならず世界中で卒業生や学院関係者にも読まれ、共に聖書の言葉の豊かさを分かち合いつつ、敬神奉仕への理解を深めて実践できるようになれば願っています。



「楓アプリ」から、どこにいても近刊の「ナルドの壺」を読むことが出来る。

〈東洋英和の先生がた〉12 倉本 和 先生



指導、奏楽、史料整理—何事にも真摯な先生—

古き良き先生—児童にも教員にも—

倉本和（くらもと・かず）先生は東洋英和女学院小学部に36年間在職し、うち6年間は教頭の務めを果たされ、児童のみならず教員にとっても「先生の中の先生」といえる存在の方だ。

教え子たちがまず思い浮かべるのは、倉本先生の書かれる美しい文字。黒板、印刷物、日記や提出物へのコメントなど、読み手に語りかけてくるような字であった。形の美しさにとどまらず、先生の文章はいつも美しい言葉で成り立っていた。当然、漢字や作文の指導には定評があった。

言葉遣いや礼儀作法も大切にされ、幼いうちに身につくよう考えられていた。先生の振る舞いそのものがお手本であった。

倉本先生が4、5、6年の担任だった卒業生は「常にきちんと、ぴしっとした、いわゆる『昭和の先生』で厳しかったが、6年の時の入学式では、最高学年として実に素晴らしい態度だったとほめてくださった。放課後にグループ分けをして遊ぶ企画を立てたり、クラス全員で大縄跳びをしたいと提案すると特別に時間を作ったりもしてくださった。クラスで何か失敗をした人をからかう人が出てくれば、全員目を閉じて机に伏せさせ、周りにとやかく言われたらどう思うかを問いかけ、自分に向き合うことで友人を思いやる気持ちが育つようになさった。お掃除当番の時には、客間ばかりではなく玄関とお手洗いを綺麗にするのが一番大事と教えてくださった」と語る。

倉本先生を知る旧・現教員に尋ねると「沈着冷静で、上品な立ち居振る舞いの先生でいらっしゃいました。お話しすれば静かに相槌を打ちながら最後まで聞いてくださり、報告や相談をすれば必ずご自分のノートにメモをしながら聞いてくださいました。何が起きてても慌てふためくことなく対応され、右往左往されている姿を目にしたことはありませんでした。それでも時には「えーっ」と目をまんまるにされている姿が印象的でした。当時の部長先生と、教頭先生である倉本先生のお二人が講堂の壇上にあがられると、もう、それで全てがきまるという雰囲気をお持ちでした」、「優雅な物腰、やさしくユーモア

ある口調で、内容は辛辣なことをさらっとおっしゃいました。何事にも真摯に立ち向かわれていたからです。教頭職の時の仕事ぶりは、手を抜かない、とても丁寧なものでいらしたと思います。退職されてからも小学部のことを気に掛け管理職たちを励ましてくださいました」と返ってきた。

また、倉本先生の教頭時代に新卒で着任した教員によると「ある日保護者の集まりがあり、その日はあいにくの雨で、皆さん講堂の入り口辺りで雨のしずくを拭いていらっしゃいました。その横に『ご自由にお使いください』と倉本先生の達筆な字で書かれた画用紙が貼ってあり、新しい真っ白な雑巾が何枚もかかっていた。私はこの心遣いを目の当たりにして、東洋英和は、こういうことを大切にしている学校なのだと感じたことを今でも鮮明に覚えています」。倉本先生の丁寧な仕事ぶりの一端が分かるとともに、先生のなさることが新任教師にとって生きた学びとなっていたことがよく伝わってくる。同じ教員によるエピソードには続きがある。「初めて担任した1年生の教室で、子どもたちが整理整頓をしていた時、通りかかった倉本先生が教室を覗かれたのでしょ、後から『お片付けの時に、聖書を一番上にして置きましょうと伝えていらっしゃいましたね。そういうことが大事なのです』とおっしゃいました。日常の何気ないことをしっかり見てくださったこと、倉本先生が、そして小学部が何を大切にしているのかを学ばせていただいた出来事でした」。

新婚の教員たちへの心配りも行き届いたものだった。「使っていない肌掛け布団があるから送ってもよいかしら、と夫婦用2枚を送ってくださいました。今も愛用しています」、「よかったら召し上がってね、といただいた風呂敷包みを開けるとお赤飯がお重に詰めてあり、それ以上に感激したのはごま塩が一瓶添えてあったことです」。教頭になられても17時には学校を出ていらしたという倉本先生が、丁寧な家庭生活を送っていたことを想像させるエピソードであり、家庭を持ちながら教員を続ける上で1つのロールモデルとなる存在であったともいえるであろう。

オルガン奏楽と小学部の教育の懸け橋として

「倉本先生＝オルガン」、こちらも教員に共通のキーワードである。「オルガンがお好きで、奏楽もとてもお上手でいらっしゃいました。小学部に就職して間もなく、全校礼拝の奏楽のご奉仕をさせていただくことになった時、その当時の講堂にあったオルガン（電子オルガン JOHANNUS Opus 6）のベンチに並んで座って、小学生の子どもたちが歌う讃美歌の伴奏をする時のテンポ、オルガンの音の大きさ、音色のことなどを、細かく教えてくださいました。前奏や後奏の長さや曲の選び方など、こんな曲もよく弾いていましたと、楽譜のコピーをいただきました。その楽譜には先生の手書きで、テンポ、この曲を弾く時の音色、つまり組み合わせのストップの番号が丁寧に書き込まれていました。どんなにか先生が大切に準備して奏楽されていたのかを感じました。それと同時に、何度もくり返されることであっても、その度に丁寧に準備をされる倉本先生のお人柄を感じさせる楽譜です」。

倉本先生は北ドイツオルガンアカデミーが主催する、ヨーロッパの教会を訪ねて多くのオルガンを見聴きする旅に参加され、小学部宗教部発行「めぐみ」No.67（1980年2月28日）で報告されている。オルガニストに必須とされる即興演奏を彼の地で聴いた感想として「人が一人一人の個性を尊重され、その人らしさを育てられていく、こんな望ましいことが基礎的な訓練を経た上でなされていく」ことを痛切に感じ、教育のあるべき姿を見たという。教え子の1人が「現在教会学校の教師として奏楽を担当していますが、小学部の聖歌隊の一員だった時に倉本先生に教えていただいた奏法が、今でもオルガン奏楽の要になっています。ご指導はほんの短い時間のことでしたが、一番大切なことを伝えてくださいました」と感謝の言葉を語るのも、小学部での教育とオルガンを深く結びつけて考えていらした倉本先生のご意思が伝わったのかもしれない。

史料整理に込めた思い

学院標語である「敬神奉仕」の表れとして、隠れたよい行いをする、自分のすることに名を残さないことが「多くの小さい人達への指導の指針となっている」と倉本先生は記す（「めぐみ」No.100記念号、1984年12月20日）。このことは、「小学部資料整理会（仮）」（「史料室だより」No.35参照）を栃内禮子先生（同No.98参照）、野田文一郎先生と始められた精神にも繋がっているのではな

いか。小学部100年を前にして「日々の教育活動に多くの先輩の先生方が主のご用のために働かれた足跡をどう残していくか」を考えながら、小学部にあるすべての資料を集めるところから始めた整理会は、一段階を終えるまで4年続いた。まずは校内を見て回りすべての資料を書き出し「史料計画整理表」を作成。第1次整理で資料を一度全部出して整理、第2次整理で細かく分類、第3次整理で製本の準備やファイリングを行った。結果として製本された資料は17冊、ファイリングした資料は28種類にのぼった。

まとめとして、先生は以下のように述べられている。「学院の史料室が名実共に生きた史料室となり、同時に各部に於いても整備され、いつでも活用できる史料室をもつようになりたい。この史料室は教師や児童・生徒にとってわが学びやのすべてを知り得る場となり、東洋英和の精神、校風を直接はだで感じ成長の糧を得る場所であったらどんなにすばらしいことであろう。そこに物語られるすべては主の栄光であり、そのみ光りを受けて育つ英和の生徒たちであるからである。そのためにやがて小学部にも史料整備のための委員会が生まれ、神の導きによる歩みを確かに残していける組織が常に生きいきと活動を続けていくことを心から祈るものである」。

その後倉本先生は、お手元にあった学校関連資料を史料室へ多数ご寄贈くださった。特に2015・2016年には、永年勤続記念の聖書、多くの書き込みがある讃美歌の伴奏譜や歌集、賞状など、長い間大切に保管していらしたものを揃えてお届けくださった。このお気持ちに応える史料室でありたいと常に願うものである。

三笠 知世（法人事務局史料室・史料室委員）

倉本 和（くらもと・かず）先生

—略 歴—

1930年5月29日 誕生
1948年3月 桐朋学園桐朋高等女学校卒業
1951年3月 東京学芸大学東京第二師範学校
本科卒業
1951年4月～1955年3月
千代田区立永田町小学校奉職
1955年4月～1991年3月
東洋英和女学院小学部奉職
1985年4月～1991年3月
同 教頭
2020年8月18日 召天（90歳）



史料室から、ごきげんよう

約40年の時を経て日本語訳が刊行された『日本での百年』

史料室の書庫にはずっと気になる本がありました。

水色の厚紙のカバーで仮製本の2冊組、中身はタイプ打ちコピー紙で、全536ページもあります。正式に出版されないままの原稿…という風体です。しかし、中身を読んでみると東洋英和女学校を創設したカートメル先生を送り出したカナダ・メソジスト教会の婦人ミッションをはじめ、東洋英和学校（男子校）や関西学院の運営に関わっていく男性ミッションのことも詳しく記録されています。この文献は『東洋英和女学院百年史』にも引用され、非常に大事な文献であることは明らかでした。

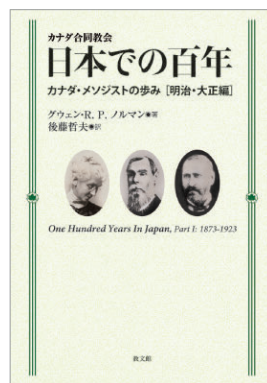
この本のタイトルは *One Hundred Years in Japan 1873-1973*、1981年にカナダ合同教会の世界宣教部から出版されました。Part1にあたる1873年から1923年までをグウェン・ノルマンが、Part2にあたる1923年から1973年までをグウェンの夫であるハワード・ノルマンが執筆しています。ハワード・ノルマンは軽井沢生まれ、東洋英和の役員もされた方です。父は「長野のノルマン」と呼ばれ、おもに信州伝道に携わったカナダ人宣教師ダニエル・ノルマンです。ハワードもグウェンも共にカナダで歴史学を学び、戦前と戦後に日本各地で伝道活動に従事し、カナダ合同教会本部にも勤務した、日本とカナダ両方の事情に通じた方々でした。

大事な文献でしたが英文の大著であるので、今までは部分的に研究会で参考にされたりするだけでした。ところが数年前、山梨英和中学校・高等学校の元英語教諭後藤哲夫先生のご尽力によりPart1が翻訳され刊行されるという朗報が届きました。

そして、このたび刊行となった本のページをめくると、巻頭に塩入隆先生の序文がありました。塩入先生は『東洋英和女学院百年史』を執筆してくださいました方です。そして、塩入先生の序文を読んで、はじめてこの本が仮製本だった事情がわかりました。

執筆者ハワードの弟、ハーバート・ノルマンも日本生まれ、有能な外交官であり歴史家でしたが、戦後スパイ容疑をかけられ1957年に自殺してしまいます。カナダ国内でその嫌疑が晴れぬ当時、ノルマン夫妻の著作の正式な刊行は難しい状況だったのだそうです。しかし、たとえ仮製本であっても本は残され、少数部数が日本に伝わりました。そうして40年以上の時を隔て、日本語訳『日本での百年』が遂に刊行となったのです。

二代にわたり日本での伝道活動に生涯を捧げた「ノルマン家の思い」、カナダの宣教師の先生がたの歴史に感謝を覚えながら、是非多くの東洋英和の関係者の方々に読んでいただきたい本です。



グウェン・R. P. ノルマン著 後藤哲夫訳
『カナダ合同教会 日本での百年
カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]』
教文館 2023年12月刊行 税込価格：4,950円
500頁



『東洋英和女学院はみ出し140年誌』 投稿募集!!

東洋英和と関わりがある方々が東洋英和での経験を生き生きと綴ったエッセイ等を集め、デジタルブックや新聞にまとめます。東洋英和独特の言葉を集めた「あるある英和事典」のコーナーも作りますので奮ってご応募ください。

募集要項はこちら



「あるある英和事典」はこちらから入力



募集締切 2024年9月30日(月)

利用統計 (2023年10月～2024年 3月)

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
展示見学者数		100	111	107	122	108	98
展示見学者区分	学内関係者	28	52	37	72	17	29
	一般	72	59	70	50	91	69
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
資料閲覧者数 (累計)		14	7	2	6	2	3
閲覧者区分	本学学生・生徒						
	現教職員	2	2	2	2		1
	旧教職員				1		2
	同窓生・学院関係者	6			1	2	
	同窓生(研究者)						
	他校研究者・学生	3	5		2		
	一般	3					
利用の目的	年史編集		2	1	2		2
	著述・論文作成	3			2		
	伝記資料調査	3	2				1
	記録類の調査・研究	8	1	1	1		
	学院広報関係				1	2	
	その他		2				
資料の種類 (重複あり)	東洋英和関係	10	5	2	6	2	3
	カナダの教会関係	5	1		1		
	村岡花子関係	3			1		
	周辺地域史						
	その他		2				
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
月別レファレンス件数		12	17	1	8	9	9
質問者の区分	本学学生・生徒						
	現教職員	8	11		2	5	3
	旧教職員	1	4			2	3
	同窓生・学院関係者	1	1			1	1
	同窓生(研究者)				1		
	外部研究者・学生	2			1		
	外部研究機関			1			
	一般		1		4	1	2
質問内容 (重複あり)	資料所蔵調査	5	3	1	1	3	5
	写真所蔵調査	2			1	1	2
	事項調査	6	11	1	3	1	3
	その他	1	4		3	6	1

史料室の活動より (2023年10月～2024年 3月)

(☆は複数回)

2023年10月

- ・1日―追悼記念日礼拝 同窓生からの照会、寄贈対応
- ☆140年史、子ども140年史一年表・資料編データ作成、各部入稿前原稿校正、照会対応、資料・画像提供ほか
- ・出張―かえで幼稚園にて、140年史について打ち合わせ
- ・27日―140年史、各部原稿締め切り
- ・新任者へ学院沿革説明(松本)
- ☆学院ビジョン策定会(松本書記担当)
- ・来室／調査／相談―村岡恵理氏と広川美愛氏。「軽井沢ヴィネット」特集とともに軽井沢での村岡花子関連展示のため資料調査と打ち合わせ
- ・執筆―楓園「史料室レター」36
- ・大学の歴史展示準備のため①パネル作成費見積り②展示方法説明資料③展示設置に想定される諸費用一覧情報を大学総務課に提出
- ☆桜プロジェクト10周年ツアー準備
- ☆照会―高等部長より、訓令12号／戦時下の学校生活、東洋英和とキリスト教について
- ☆照会―山梨英和元教諭後藤哲夫氏より、WMSの宣教師について
- ・大学院図書室より故伊勢紀美子教授所蔵書籍・資料受領(宣教師、カナダ関連の書籍を選書)
- ☆幼稚園母の会講演会準備
- ・来室―昭和40年高等部卒業生4名。親族の英和生の思い出話、二番地での幼稚園生活、ヴォーリズ校舎での小学部生生活、小学部新校舎へ移った思い出などをうかがう
- ・来室／調査―副院長。1930年代の英語聖書について、ハミルトン校長使用の聖書
- 2023年11月
- ・1日―創立記念の幼稚園母の会講演会にて、幼稚園の歴史

- について講演(松本・三笠)
- ・「史料室だより」No.101納品、発送
- ・6日―創立記念日礼拝参加(高等部・中学部)
- ・来室／調査―国際文化会館図書室 栗田氏と森山氏。史料室の運営について
- ☆「史料室だより」No.102、執筆、編集作業
- ・取材―「史料室だより」No.102のため、小学部自校史授業を取材、インタビュー
- ・校正―「楓園」No.97
- ・18日―楓の会オルガンコンサートの出口にて歴史パネル展示・解説(松本)
- ・照会―中学部長より、スクールカラーの「マリーゴールド」について→宣教師の文章や、英文の50年史では「garnet & gold」となっている
- ・来室／調査―元東京女子大学学長小野祥子氏(1966年高等部卒)、東京女子大学同窓会佐藤百合子氏(安井てつ研究会代表)。安井哲について
- 2023年12月
- ・見学―小学部学芸会。村岡花子の生涯を描いた「曲がり角の先に～A Gift from Hanako」を6年生が上演
- ・来室―禿泰子先生(高等部卒。元中高部英語科講師)。資料寄贈とともに、1970～80年代のカナダ滞在、カナダ合同教会との交流についてお話をうかがう
- ・140年史小学部原稿校正合わせ
- ・照会―東京家政学院創立100周年記念誌編纂室より、大江スミの東洋英和での教職就任期間について
- ・生涯学習センター25周年記念講座「UNESCOと博物館」講演協力、展示コーナー解説
- ・来客―禿準一牧師(生田教会。学校法人鶴川学院 理事長)、ロバート・ウィットマー師(カナダ合同教会元宣教師)と

- 恵子夫人、タルボット氏（カナダ合同教会世界宣教部担当者）、平良愛香教師（川和教会牧師、農村伝道神学校校長）
- ・12日「軽井沢ヴィネット」撮影アテンド（村岡恵理氏と）
- ・村岡花子関連資料を提供
- ・来室／調査—小学部教員。140年史のため「虹の橋通信」
- ☆校正—「大学案内」2025年度
- ・来室／調査—ヴォーリズ建築設計事務所研究員・芹野与幸氏、こだまひろこ氏。ヴォーリズや津田梅子について
- ☆来室／調査—中高部教員。社会人大学院課題発表のため、クラス日誌・学級日誌

2024年1月

- ・照会—高等部長より、卒業式での黄水仙の配布について→昭和40年卒業生によると当時黄水仙を卒業生には渡しておらず、当初からの伝統ではないらしい
- ☆校正—「軽井沢ヴィネット」村岡花子特集記事
- ・来室／調査—筑波大学大学院生。村岡花子、宣教師関連資料
- ☆140周年記念事業準備委員会（松本）
- ・出張—大学史資料協議会研究会（NHK放送博物館）（松本・三笠）
- ・資料整理—高等部長室の資料整理に出張
- ・26日—第3回 史料室委員会
- ☆来室／調査—山本香織前小学部長。子ども140年史のため画像検索等
- ・30日—中高部地歴部ボランティア（部員9名と瀧川先生）。学院創立80周年アルバム掲載の写真原本を整理

2024年2月

- ・出張／調査—140年史のため国立公文書館所蔵の在日本カナダ合同教会宣教師社団資料（松本）
- ・次年度の大学「東洋英和の歴史」授業シラバス確認
- ・小学部倉庫で史料検分作業（地主史料室委員と）
- ☆来室／調査—中高部母の会会長、副会長。母の会総会資料に掲載する、ヴォーリズ作詞英語校歌について
- ・執筆—「楓園」98号、「史料室レター」37、「140年史」記事
- ・校正—HP卒業生ページ用 ミス・カートメル原稿
- ・資料貸出—軽井沢タリアセンでの展示のため「赤毛のアン」ジオラマ
- ・照会—水谷悟教授より、若林里雨の卒業証書の有無→史料室には画像のみあり／若林里雨に言及したダニエル・ノルマンの*Witness of the Way in Japan*の記述を紹介

2024年3月

- ・照会—水谷悟教授より、勤労働員の資料点数について→現在324点採録。データを送信
- ・照会—副院長より、宣教師による聖書の書き込みについて→ミス・カートメルの聖書の書き込みデジタルデータを提供
- ・取材協力—奥田実紀氏、村岡恵理氏。静岡で行う講演会のため展示コーナーと村岡花子資料の撮影
- ・高等部卒業式出席・校歌90周年ビデオ取材アテンド（松本・三笠）
- ☆校正—「楓園」98号
- ・校正—教文館から執筆依頼の『カナダ合同教会 日本での百年』書評初校（松本）
- ・照会—テレビ東京「出沒！アド街ック天国」より、「赤い靴」の佐野きみ、永坂孤女院について
- ☆来室／調査—水谷悟教授。140年史前史執筆のため、各年代の史料多数

- ・照会—本学大学教員より、①築地教会の発足②ミス・カートメル渡航時の年齢③WMSに聖句の宣教標語は存在したかについて
- ・来室—赤松佳子ノートルダム清心女子大学教授。展示コーナーを見学
- ・29日 第10回 140年史編纂委員会

【おもな移管資料】

- ・小学部より、「宣戦詔書」卷子本ほか
- ・中高部より、国語科資料多数
- ・小学部より、2020年度コロナ関連資料

【おもな受贈資料】

- ・飯島千雍子名誉教授より、音楽教育、教会資料、宣教師関連資料多数
- ・村岡家より、村岡花子書簡資料多数
- ・元中高部理科教諭 秋葉明子先生より、ET会資料、中高部式次第、逐次刊行物などバラ資料ほか多数
- ・村岡花子『赤い薔薇』購読予約者募集チラシ
- ・矢野久美子同窓会会長より、2005年高等部卒の卒業記念品「楓和盆」（象彦製漆盆）
- ・ミス・ハミルトンの引退、送別会の写真か？（1956年7月。東鳥居坂町二番地の宣教師館にて）
- ・1941年卒業アルバム、追悼集『多恵子』、*The One Hundred and One Best Songs*, The Cable Company, 1922.
- ・中高部社会科教諭 北崎勝彦先生より、義母の英和時代の紙焼き写真47枚

（書籍・雑誌・論文）

- ・村岡家より青い鳥文庫『赤毛のアン』シリーズ、史料室、小学部、中高部へ複数冊
- ・山下澄子氏（1942年高女科卒）の遺稿集（聞き書き）
- ・池田明史前学長より、東洋英和在職中の寄稿を集成した『楓道選』2023年9月
- ・『襲名記念出版 大道具 長谷川勤兵衛』（1965年非売品）
- ・『本多庸一の親族』上巻・下巻、自悠工房、2023年
- ・『寿岳文章展—領域なき探求：英文学、民芸、和紙研究—』関西学院大学博物館、2023年
- ・『東京女子大学同窓会の100年』2022年
- ・小山（廣木）明美氏（1960年高等部卒）より、自著『蒼い空に向かって』文芸社、2023年
- ・村上祐子氏（1956年保育科卒、元東洋英和幼稚園教諭、元評議員）自分史『青い楓』2023年
- ・山梨英和元教諭後藤哲夫氏より、グウェン・ノルマン著『カナダ合同教会 日本での百年』教文館、2023年
- ・こだまひろこ氏より、自著『小説 津田梅子 ハドソン河の約束』新潮社、2021年
- ・木村昌人「書評 小出いずみ著『日米交流史の中の福田なをみ「外国研究」とライブラリアン』」（渋沢研究第36号抜刷）
- ・野口孝一「銀座ハイカラ女性史」平凡社、2024年（村岡花子の画像提供）

【おもな画像提供】

- ・中高部入試広報へ、旧校舍画像など13点
- ・高等部長へ、訓令12号、戦時下の学校関連画像23点
- ・「軽井沢ヴィネット」へ、村岡花子関連画像8点
- ・総務課へ、「楓園」98号特集のため画像33点
- ・総務課へ、卒業生HPのためカートメル関連の画像5点
- ・NHK甲府放送局へ、「やまなし朗読会」のため村岡花子画像1点

🌸 展示コーナーご案内

◆村岡花子文庫展示コーナー企画展—学院創立140周年記念展示—

東洋英和の年史・学院関係刊行物からたどる 村岡花子が描き出した東洋英和の歴史

今回の展示では村岡花子が手掛けた東洋英和関連の刊行物を紹介し、“歴史を残す”ということにおいて村岡花子が果たした業績をたどっていきます。

会期：2024年11月30日(土)まで

◆学院資料展示コーナー企画展 東洋英和の周年記念—創立25周年から現在まで—

会期：2024年12月21日(土)まで

🌸 資料ご寄贈のお願い

史料室では、学院の歴史や学校生活の様子を伝える資料、写真、記念品等を収集しています。お手許にあってご不要のものがございましたら、ご寄贈いただけますと幸いです。また、卒業生および教員の方々の著作も収集しています。

【お問い合わせ先】 東洋英和女学院史料室 〒106-8507 東京都港区六本木5-14-40
Tel 03-3583-3166 (直通) Fax 03-3583-3329 E-mail archive@toyoeiwa.ac.jp